

株式会社ジェイコム八王子

2015 年度 放送番組審議会 議事録

2015 年度 株式会社ジェイコム八王子 放送番組審議会は、2016 年 3 月 31 日(木)、同社にて開催された。

<放送番組審議会委員> (五十音順)

—ご出席—

相原 悦夫 様	鎌田 正純 様
新堀 俊明 様	細谷 幸男 様

—ご欠席—

中部 いずみ 様 (委任状あり)

事業者側から局の現況報告、及び J:COM チャンネル(11ch)と J:COM テレビ(10ch)について報告があった。

【質疑応答・意見交換】(細谷会長による進行)

◆「デイリーニュース」について

委員 体系的に番組が編成されていることを理解できた。その中で「デイリーニュース」が一番浸透していると思うが、さらに浸透度を高めるために放送枠を朝にも設けてはどうか。

「デイリーニュース」と「各種特番」が二つの柱になっていると思うので、2016 年度以降も番組内容を十分検討し、密度を高めていって欲しい。

委員 「デイリーニュース」の放送を八王子局単独から日野局と多摩局の 3 局合同に拡大し、その後、八王子局と日野局の 2 局合同に縮小したとのことだが、縮小した方が良いという声の主体は八王子市民のどういう層か？

事業者 昔から八王子に住んでいる 50 代以上の年配層である。

事業者 地域メディアであるケーブルテレビの役割は、地域情報を発信することと認識している。その地域情報の内、最も重視しているのは安心安全情報である。安心安全情報は、自分が住んでいる町のものでなければ関心を持ってもらえないので、必然的に放送エリアは狭小化へ向かっていくことになる。今回、「デイリーニュース」の放送エ

リアを縮小したのは、その表れである。

委員 大雪のニュースの際、このところ NHK も含め地上波局は八王子駅前から中継している。東京と言っても八王子地区は都心と異なり、積雪量が多くなる特性があるので、その特性を踏まえた報道の視点が必要になると思うが、いかがか？

事業者 おっしゃる通りだと思う。八王子のケーブルテレビ局なので、八王子駅前から中継するのは至極当たり前のことである。我が町に特化した気象情報、防災情報を伝えることに主眼を置いている。

委員 是非、それに徹してもらいたい。

事業者 但し、リソースの問題から緊急時の第一報を東京全体の広域から出す可能性もある。例えば、深夜に大地震が起きた場合、「東京エリアの制作スタッフ 60 人余りで各狭小エリアを取材し、かつ中継までできるのか」、また「社員の安全面に配慮して 2 人体制にすべきか」などを考えると、やむなく第一報は広域からと判断する場合が出てくると思う。なお、今年度から L 字放送を導入し、制作スタッフが自宅から緊急情報を入力して表示させる仕組みを整えた。よって、広域での第一報の後に、可能な限り狭小情報を発信したいと考えている。

委員 八王子は地震が起きたとしても、地質構造上、被害は小さなものになるだろうと予想されている。加えて、水害についても、それほど心配しなくてよい地域である。制作スタッフには限りがあるから、まんべんなく天変地異に対応しようとするのではなく、重点を置く災害を定めておくべきだろう。

委員 地域情報が充実してきているので、ありがたいと感じている。地震は突発的に起きるものなのでどうしようもない部分があると思うが、台風や大雨は予報ができるので、事前に様々な情報を出して欲しい。そして、何かあれば J:COM を見ようという視聴習慣が付けば、地域チャンネルとして定着すると思う。

委員 「デイリーニュース」は、なかなか良くできていると思う。但し、アナウンサーについて注文がある。ニュース番組において重要なことは、原稿を読むのではなく、視聴者へ伝えることである。その意味で、当該アナウンサーは、“視聴者へ伝える”という姿勢が乏しいと感じた。地元のニュースを身近な地元の人たちへ伝えるという想いを込めて番組に臨んで欲しい。

週末おでかけ情報は、色々なイベントをちゃんと紹介できており、全体として評価できる。

多摩工業交流展のニュースでは、リポートするという姿勢が前面に出ていたのが良かった。但し、『こちらの企業さん』というコメントが気になった。『さん』を付けると丁寧になると思っているかもしれないが、『こちらの企業』という表現は蔑称にはあたらない。伝え手としての基礎的な部分におかしい点があった。

委員 フラチナリズムとエイトプリンセスは、それぞれのカラーが出ていて良かった。また、多摩工業交流展のニュースは出色の出来だった。宇宙機器から家庭用品まで様々なジャンルの品を紹介しており評価できる。

◆時事ネタの地域ネタ変換について

事業者 現在、“時事ネタの地域ネタ変換”にも努めている。例えば、八王子在住の方の勤務地である渋谷で大雨が降り、地上波で大きなニュースになった場合、その方は地元の八王子は大丈夫だろうかと思うはずである。このような日は、リソースの問題はあるが、都心部との対比ができるよう八王子の気象情報をしっかり伝えたいと考えている。

委員 “時事ネタの地域ネタ変換”の話が出たが、昨年、北陸新幹線の開業に際して、八王子にある金沢料理のお店を取材していた番組を思い出した。正に、時事ネタに関連した地域で楽しめる情報であった。

事業者 数年前、中国製の冷凍餃子を食べた人たちが中毒症状を訴え入院する事件が起き、地上波のワイドショー等で連日大きく取り上げられた。その餃子は、全国各地のスーパーで販売されている可能性があったので、地域の生活情報を発信しているケーブルテレビとして、このような情報も伝えていかなければならないということになった。この事件あたりから、社会の関心事を地域に変換する取り組みが始まった。

◆社外の取材協力者について

委員 以前、ご年配の方がカメラを担いで取材していたが、今はどうされているのか？

事業者 ビデオクラブの皆さんはご高齢ということもあり、今は積極的に活動されていない状態である。

委員 制作スタッフや機材に限りがあるだろうから、緊急時に社外の方の支援を仰ぐ方法もあるのではないかと思った。

事業者 市民の中には、自分が撮影した映像をメディアに乗せたいと希望される方が

いるので、その方々の想いに応える仕組みを作りたいと考えている。

事業者 将来的には、“市民特派員”や“市民記者”といった制度を作りたい。例えば、映像で見せるだけがテレビメディアの役割ではないと思うので、現場近くの“市民特派員”の方から電話中継で、高尾山の大雪情報や多摩川の増水情報などを伝えてもらうことができると考えている。

委員 “市民特派員”制度は良いことだと思うが、受け取った情報が正しいかどうか精査できないまま放送するのは問題なので、“市民特派員”との信頼関係をどのように築いていくかが課題になるだろう。

委員 人や機材等の体制が整わないという制約があるかもしれないが、気象情報や交通情報はリアルタイムで届けることが原則だと思うので、その実現に向けて取り組んで欲しい。また、一般論ではあるが、平成になってから新聞社の支局の減少に伴い、地域のきめ細かな情報が提供されなくなっている。かつての当該支局の役割をケーブルテレビが担って欲しい。

◆「東京生テレビ～高尾梅郷 梅まつり～」について

委員 1カメの場合、絵作りはカメラマンの力量次第となる。今回、カメラマンの軸足が定まっていなかったのが絵にふらふら感があった。カメラマンとディレクターが同一人物ならかなり無理があるが、別々ならディレクターがカット割りを指示するべきである。また、よさこいソーラン踊りのシーンでは、衣装の説明が欲しかった。

委員 梅林がテーマなので、メインコースの旧甲州街道を歩いて欲しかった。

委員 ハイキング番組的な印象を受けたが、ローカル色とほのぼの感が出ていて良かったと思う。

事業者 「東京生テレビ」は東京都内のJ:COM各局で放送する番組なので、広域視聴を意識した視点、具体的には梅林の見所や歴史などの説明が必要だった。

◆2016年度の編成方針について

委員 「地域活性化に貢献する番組の計画」が掲げられているが、その一環として、地元の元気な企業、蘇った企業、オンリーワン企業などを発掘し、番組で紹介して欲しい。意外に地元の人たちはそのような企業があることを知らないと思う。

委員 地域活性化と言うと、伝統産業が主体になりがちだが、これからの時代を作り

上げていくようなエネルギーを感じる企業を紹介して欲しい。

以上